

メッセージ



座間市 池田 徳晴 議員

有史以来、人類は地球上において自然災害の発生や細菌やウイルスなど微生物との闘いの中で多くの犠牲を払いながら身を守り、ときには自然を上手に活用し、そして微生物と共存することで生き延び繁栄してきました。

一方、人類は現在も人類同士で愚かな殺戮を繰り返し、自然を汚染・破壊し、おごり高ぶって他者への人権や尊厳をないがしろにしているようにおもわれます。

過去を振り返り、そこから得られる教訓をもとに、自然を守ることによって地球上の限りある資源を大切に後世に残すことが我々現代人に課せられているのではないでしょ

うか。

核兵器不拡散条約再検討会議開催に合わせ、5年ぶりに連合主催の核兵器廃絶1000万人署名活動が行われています。

人類がつくり出した最強最悪な非人道的な核兵器による悲惨な被害をあらためて認識し、世界中のあらゆる非人道的な核兵器の廃絶と「核兵器禁止条約」の発効をめざして、日本政府と国連にその想いを届けることは、地球上のあらゆる場所で人類が安心して生活できる恒久平和の実現をめざす上で非常に大切なことであります。

世界で初めて実戦で使われた非人道的な核兵器である原子爆弾は、1945年8月6日午前8時15分に広島市に投下、8月9日11時2分に長崎市に投下されました。

この一発の兵器により当時の広島市の人口42万人のうち、死者・行方不明数は12万2,338人、長崎市の人口24万人のうち、死者・行方不明数は7万3,884人が一瞬で犠牲になったと言われています。そして、被爆後5年間の間に広島で20万人、長崎で14万人の方々が亡くなったといわれています。

このように、原子爆弾は、実に、広島では約50%、長崎では60%の方が亡くなるほどの人類史上最強の非人道的な兵器であります。また、1954年に太平洋のマーシャル諸島にあるビキニ環礁でアメリカが行った水爆実験によって被害を受けた木造漁船「第五福竜丸」の被害も忘れてはいけない事件であります。

恒久平和と安全を実現することは、人類共通の念願であるにも関わらず地球上では今なお多くの核兵器がつくられ、人類の生存に深刻な脅威を与えています。

座間市では核兵器廃絶と恒久平和を願い、毎年平和を願う折り鶴をつくり広島・長崎へ届けることや長崎で被爆したクスノキの種から育てられた苗木の植樹を行っています。

最後になりますが、日本政府は2017年夏採択された核兵器禁止条約の交渉に参加しないだけでなく署名をしませんでした。

政府は「米国の抑止力強化」を強く求め、対話ではなく圧力で解決しようとしており、米国の「核の傘」に依存する安全保障政策から脱却する兆しは全く見えません。

日本は唯一の戦争被爆国であり、「核兵器廃絶を希求する国」としてこれでいいのでし

ようか。

「北朝鮮の核ミサイルが飛んでくるかもしれない」と恐れている米国や日本にとって、北朝鮮に対して本当に「核抑止」が働いているのでしょうか。

米国の巨大な核戦力をもってしても、北朝鮮の核攻撃を「抑止できない」可能性があることを充分認識すべきであり、世界で唯一の戦争被爆国の国民である私たちが連合主催の核兵器廃絶運動に参加し、粘り強く『核兵器廃絶』を日本政府と国連に届ける連合運動を大いに盛り上げていきましょう。微力ですが、共に頑張ります。

2020.7 座間市議会議員

池田 のりはる